

中央調査報

(主な内容)

- 令和5年度「国語に関する世論調査」結果の概要 1
- 告知板..... 6

令和5年度「国語に関する世論調査」結果の概要

文化庁 国語課 町田 互

文化庁では、令和5年度「国語に関する世論調査」の調査報告書を令和6年9月に公表した。この調査は、国語施策の参考とするとともに、国民の国語への関心を喚起するため、平成7年度から毎年度実施している。調査結果は、文化審議会国語分科会の審議資料とされる等、国語施策の参考とされる。以下では、本調査の概要について、令和6年9月に調査報告書を取りまとめた際に発表した概要版にしたがって紹介する。

○調査の概要

今回の調査は、以下のとおり実施した。

なお、令和2年度調査以降、感染症拡大防止の観点により、従来の面接聴取法から郵送法に変更した。それに伴い、対象数が3,000規模(210地点)から6,000(350地点)に増加している。

調査対象：全国(350地点)の16歳以上の男女個人
対象数：6,000

実査時期：令和6年1月16日～3月13日

抽出方法：層化2段無作為抽出

調査方法：郵送法

回収サンプル(回収率)：3,559(59.3%)

○調査項目

主な調査項目は、以下のとおりである。

(1)国語とコミュニケーションに関する意識

- ①国語にどの程度関心があるか
- ②日本語が分からない人の質問に答えようと思うか

- ③英語が国際化することについてどう考えるか
- ④日本語の特徴で、どのようなところに魅力を感じるか

(2)ローマ字・外来語表記に関する意識

- ①どのローマ字表記が読み書きしやすいか
- ②外来語をどちらで表記するか

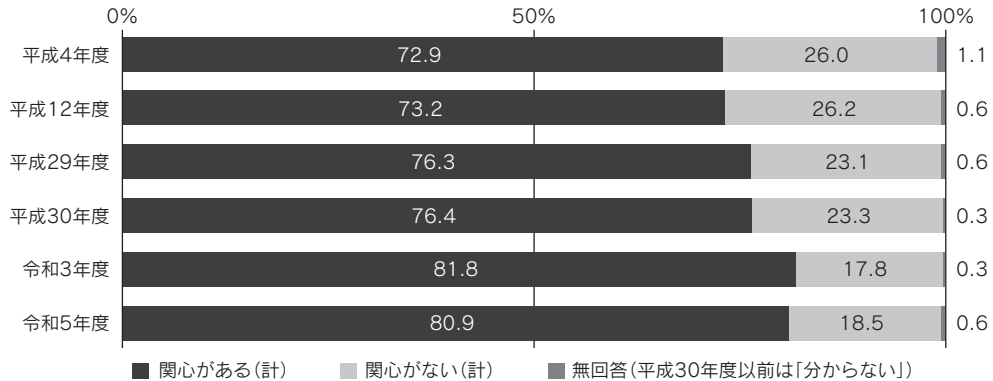
(3)読書と文字・活字による情報

- ①1か月に何冊くらい本を読むか
- ②読書量は減ったか
- ③電子書籍を利用しているか
- ④本に限らず文字・活字による情報に触れる時間が減ったか

(4)言葉遣いに対する印象や慣用句等の認識

- ①新しい言い方を使うことがあるか
- ②新しい言い方をほかの人が使うのが気になるか
- ③どちらの言い方をするか
- ④どちらの意味だと思うか

図表1 国語に関心があるか



○調査結果の概要

1. 国語への関心

日常の言葉遣いや話し方、あるいは文章の書き方など、国語について、どの程度関心があるかを尋ねた結果が図表1である。

調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和5年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成4、12、29、30、令和3年度)を参考値として図表1に示している。以降も、過去の調査結果の扱いは同様である。

「非常に関心がある」を選択した人の割合が13.5%、「ある程度関心がある」が67.4%で、この二つを合わせた「関心がある(計)」は80.9%と

なっている。一方、「全く関心がない」は1.5%、「余り関心がない」は17.0%で、この二つを合わせた「関心がない(計)」は18.5%となっている。

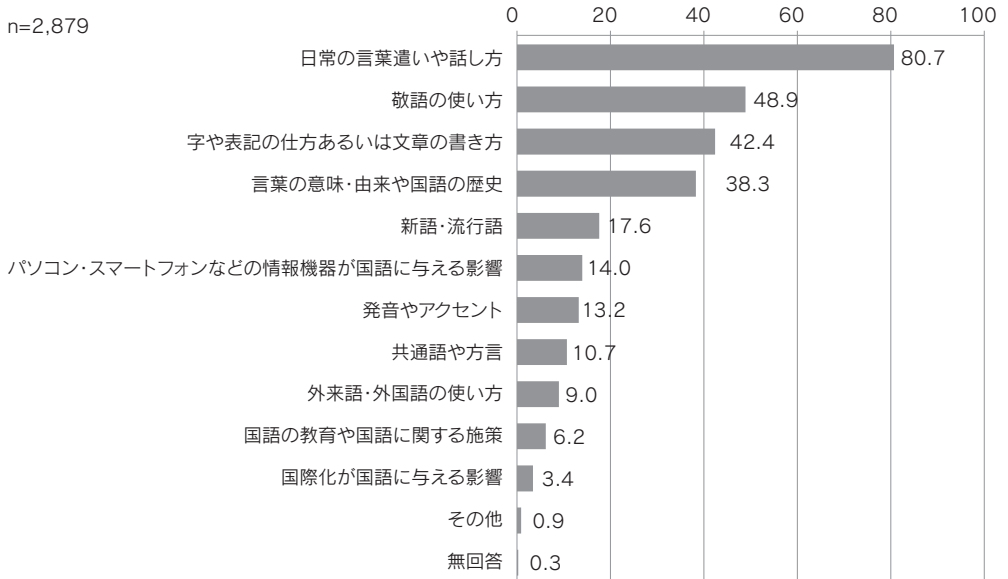
なお、過去の調査結果においては、「関心がある(計)」の割合がやや増加傾向にあった。

2. 関心がある点

国語に「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」と回答した人(全体の80.9%)に、国語のどのような点に関心があるかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)結果が図表2である。

「日常の言葉遣いや話し方」(80.7%)の割合が他に比べて高く、8割を超えている。次いで「敬語の使い方」(48.9%)、「字や表記の仕方あるいは文章の書き方」(42.4%)

図表2 どのような点に関心があるか



るいは文章の書き方」(42.4%)、「言葉の意味・由来や国語の歴史」(38.3%)が4割弱から4割台となっている。

3. 日本語が分からない人に道などを聞かれたときの対応

外国から来た人など、日本語がよく分からない人に道などを聞かれたとしたら、それになるべく答えようとすると思うかを尋ねた結果が図表3である。

「なるべく答えようとする」を選択した人の割合が89.0%となっている。一方、「答えない」は10.3%となっている。

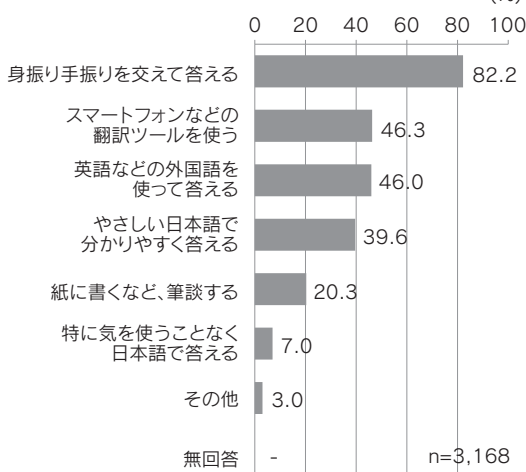
また、そのうち、「なるべく答えようとする」を選択した人(全体の89.0%)に対して、どのように答えようとすると思うかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)結果が図表4である。

「身振り手振りを交えて答える」を選択した人の割合が他に比べて高く82.2%となっている。次いで「スマートフォンなどの翻訳ツールを使う」(46.3%)、「英語などの外国語を使って答える」(46.0%)、「やさしい日本語で分かりやすく答える」(39.6%)が4割弱から4割台となっている。

図表3 日本語がよく分からない人に道などを聞かれたら、答えようとすると思うか



図表4 どのように答えようとすると思うか



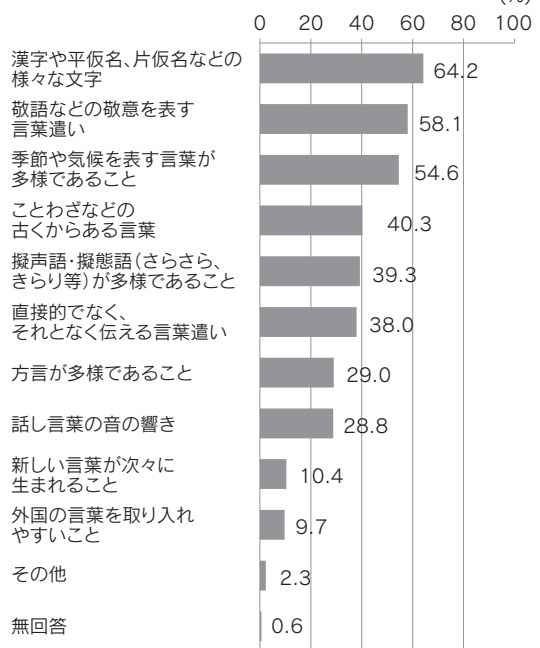
4. 日本語の特徴で魅力を感じるどころ

日本語の特徴と言われることについて、どのようなところに魅力を感じるかを尋ねた(選択肢の中から幾つでも回答)結果が図表5である。

「漢字や平仮名、片仮名などの様々な文字」が最も高く64.2%となっている。次いで「敬語などの敬意を表す言葉遣い」(58.1%)、「季節や気候を表す言葉が多様であること」(54.6%)が5割台となっている。

以下、「ことわざなどの古くからある言葉」(40.3%)、「擬声語・擬態語(さらさら、きらり等)が多様であること」(39.3%)、「直接的でなく、それとなく伝える言葉遣い」(38.0%)が約4割、「方言が多様であること」(29.0%)、「話し言葉の音の響き」(28.8%)が約3割、「新しい言葉が次々に生まれること」(10.4%)、「外国の言葉を取り入れやすいこと」(9.7%)が約1割となっている。

図表5 日本語の特徴で魅力を感じるどころ



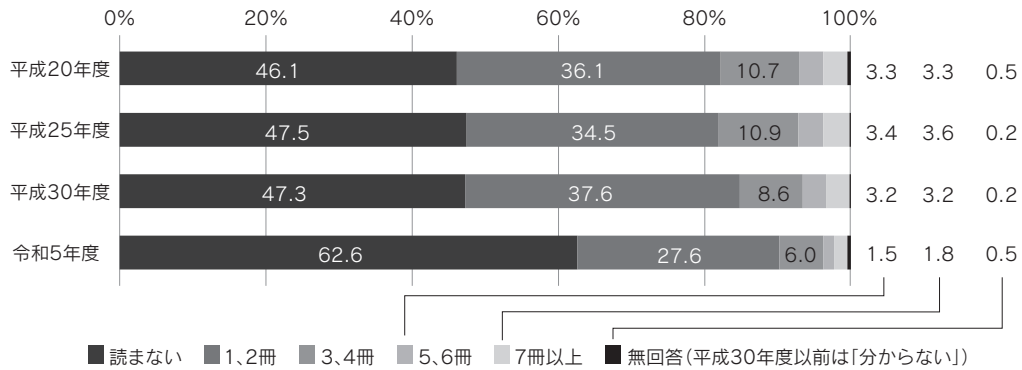
5. 読書と文字・活字による情報に関する意識

読書と文字・活字による情報に関して複数の問いを尋ねた。

まず、1か月に大体何冊くらい本を読んでいるか尋ねた結果が図表6である。この問いでは本に、電子書籍を含むが、雑誌や漫画は除く。

「読まない」を選択した人の割合が62.6%で

図表6 1か月に読む本の冊数

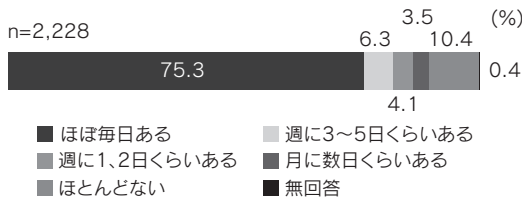


他に比べて高くなっている。一方、「1、2冊」が27.6%、「3、4冊」が6.0%、「5、6冊」が1.5%、「7冊以上」が1.8%で、1冊以上読むと答えた人の割合が合わせて36.9%となっている。

なお、過去の調査結果(平成20、25、30年度)を参考値として図表6に示している。

「読まない」と答えた人(全体の62.6%)に対して、本ではなく、それ以外の文字・活字による情報(SNS、インターネット上の記事などを含む。)を読むことが、どのくらいあるか尋ねた結果が図表7である。

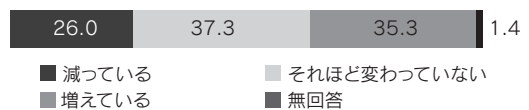
図表7 本以外の文字・活字による情報を読む機会



「ほぼ毎日ある」が75.3%で最も高く、「週に3~5日くらいある」が6.3%、「週に1、2日くらいある」が4.1%、「月に数日くらいある」が3.5%となっている。また、「ほとんどない」は10.4%となっている。

また、本・雑誌・漫画に限らず、スマートフォン、タブレット、携帯電話、パソコン等の情報機器によって、SNS、インターネット上の記事など、様々な文字・活字による情報に触れることができることを示した上で、そうしたものも含めると、文字・活字による情報に触れる時間は、以

図表8 文字・活字による情報に触れる時間の変化 (%)



図表9

(数字は%)

	使うことがある	使うことはない	気になる	気にならない
(1) 「しっかり、たくさん食べよう」といった意味で「がっつり食べよう」と言う	46.3	52.7	14.0	85.1
(2) 「ゆっくり、のんびりする」といった意味で「まったりする」と言う	52.6	46.6	13.3	85.7
(3) 「曖昧ではつきりしない目標」といった意味で「ふわっとした目標」と言う	40.9	58.2	23.3	75.6
(4) 「時間や手間をかけずに終わらせる」といった意味で「さくつと終わらせる」と言う	56.2	42.8	16.6	82.3
(5) 「筋金入りの車好き」といった意味で「ごりごりの車好き」と言う	20.0	79.1	39.6	59.4
(6) 「動物などがふんわりと柔らかそう」といった意味で「もふもふしている」と言う	52.6	46.4	17.0	81.9
(7) 「ときめきを感じる」といった意味で「きゅんきゅんする」と言う	41.4	57.7	18.5	80.6

前に比べて減っているかどうか尋ねた結果が図表8である。

「それほど変わっていない」が37.3%、「増えている」が35.3%、「減っている」が26.0%となっている。

6. 新しい表現に対する印象

「がつつり」「もふもふ」などの擬態語を七つ挙げて、自分が使うことがあるか、また、ほかの人が使うのが気になるかをそれぞれ尋ねた結果が図表9である。

「使うことがある」と回答した人の割合は、(4)「さくっ」が最も高く56.2%、次いで(6)「もふもふ」と(2)「まったく」が52.6%となっている。一方、「使うことはない」は、(5)「ごりごり」が最も高く79.1%となっている。

(1)～(7)の全てで、ほかの人が使うのが「気にならない」は、「使うことがある」より高く、(5)「ごりごり」を除いて75%以上となっている。

7. 慣用句等の認識

慣用句等の言葉の意味について、(ア)と(イ)のどちらだと思うかを尋ねた結果は図表10である。表中の太字は、辞書等で主に本来の意味とされてきた選択肢である。また、白抜きの数字は、辞書等で本来の意味とされてきた方を選択した割合より、そうでない方を選択した割合が5ポイ

ント以上高いものである。

今回尋ねた五つの言葉のうち、(1)「悲喜こもごも」、(2)「悪運が強い」、(4)「うがった見方をする」、(5)「失笑する」は、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。

選択肢は、(ア)と(イ)の意味のほか、「アとイの両方」、「ア、イとは、全く別の意味」である。

なお、過去の調査結果((3)(4)(5)は平成23年度、(1)(2)は新規の問い)を参考値として図表10に示している。

おわりに

以上、「令和5年度 国語に関する世論調査」について調査結果の概要を紹介した。

なお、全問の結果については文化庁ウェブサイト概要版と報告書のPDFファイルを公開している。QRコードから御参照いただきたい。



備考：百分比は各問いの回答者数を100%として算出し、小数第2位を四捨五入して示しているため、合計が100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。

図表 10

(数字は%)

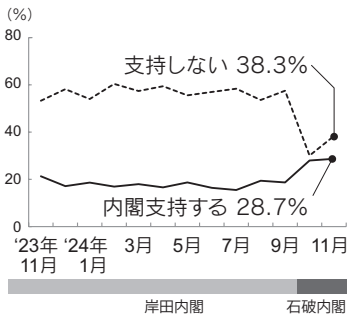
(1)	悲喜こもごも	令和5年度	
	(ア) 悲しむ人と喜ぶ人が様々にいること	49.7	
	(イ) 悲しみと喜びを次々に味わうこと	43.4	
(2)	悪運が強い	令和5年度	
	(ア) 悪い行いをしたのに、報いを受けずにいる様子	24.3	
	(イ) 悪い状況になっても、うまく助かる様子	67.2	
(3)	煮え湯を飲まされる	令和5年度	平成23年度
	(ア) 信頼していた者から裏切られる	68.5	64.3
	(イ) 敵からひどい目に遭わされる	24.4	23.9
(4)	うがった見方をする	令和5年度	平成23年度
	(ア) 物事の本質を捉えた見方をする	32.7	26.4
	(イ) 疑って掛かるような見方をする	60.7	48.2
(5)	失笑する	令和5年度	平成23年度
	(ア) こらえ切れず吹き出して笑う	26.4	27.7
	(イ) 笑いも出ないくらいあきれ	67.0	60.4

◇ 告知板

11月の時事世論調査

11月の時事世論調査によると、石破内閣の支持率は0.7ポイント増の28.7%でほぼ横ばいだった。不支持率は8.2ポイント増の38.3%で不支持が支持を大きく上回った。

調査は全国18歳以上の男女2,000人を対象として11月8日から11日に実施、有効回収(率)は1,190(59.5%)だった。



この時期の国内の動きは、

ノーベル平和賞、日本被団協へ：ノルウェーのノーベル賞委員会は、2024年のノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与すると発表した。日本人の平和賞受賞は1974年の故佐藤栄作元首相以来50年ぶり(10月11日)。

美術評論家、高階秀爾氏死去：日本の西洋美術史研究をけん引してきた東京大学名誉教授で、文化勲章受章者の高階秀爾(たかしなしゅうじ)さんが心不全のため亡くなった。92歳だった。開館間もない頃の国立西洋美術館に勤務し、「松方コレクション」の調査と研究に取り組んだ(10月17日)。

東京メトロ、東証上場：東京メトロが東京証券取引所プライム市場に上場した。終値での時価総額は1兆円を超え、今年最大の新規上場となった。政府保有株の新規上場は2015年の日本郵政以来となる(10月23日)。

衆院選投開票、与党惨敗：第50回衆議院選挙が15日に公示、27日投開票された。465議席を争い、自民が191議席、公明が24議席で改選前から計64議席を失い与党は過半数(233議席)割

れとなった(10月15日、27日)。

東証、取引時間延長：東京証券取引所は、株式の取引時間を30分延長し終了時刻を午後3時から同3時半に繰り下げた。終了時間の延長は1954年以来70年ぶり。ただ、海外の投資家からはさらなる延長を求める声も出ている(11月5日)。

燃料デブリ、試験的な取り出し完了：福島第一原発2号機からの溶け落ちた核燃料(燃料デブリ)の試験的な取り出しが完了したと東京電力が発表した。回収量は0.7グラム、これまで2度の中断があり作業が遅れていた(11月7日)。

国外では、

太陽活動、極大期へ：米航空宇宙局(NASA)や米海洋大気局(NOAA)は、太陽活動が「極大期」に入ったと発表した。極大期には大規模な太陽フレアが多発し、低緯度地域でのオーロラ観測や通信障害など地球へ大きな影響を及ぼす(10月16日)。

ハマス最高指導者を殺害：イスラエル軍は、パレスチナ自治区ガザで戦闘を続けるイスラム組織ハマスの最高指導者ヤヒヤ・シムワル氏を殺害したと発表した。同氏は2023年10月に起こったイスラエル襲撃の首謀者とされ、イスラエル軍の最大標的とも言われていた(10月17日)。

北朝鮮がロシア派兵：韓国の情報機関である国家情報院(国情院)は、ロシアのウクライナ侵攻に参戦するため、「北朝鮮が特殊部隊を含む4個旅団約1万2千人の派兵を決めた」と明らかにした(10月18日)。

中印首脳が会談：インドのモディ首相と中国の習近平国家主席がロシア中部カザンで会談した。両国首脳の間は2019年を最後に途絶えており、今回は5年ぶり。国境問題等で冷えた両国関係の修復を目指すと思われ(10月23日)。

米エヌビディア、ダウ銘柄に：米主要株価指数のダウ工業株30種平均を算定するS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社は、

ダウ工業株30種平均の新たな構成銘柄に半導体大手のエヌビディアを採用し、老舗のインテルを除外すると発表した(11月1日)。

トランプ氏、米大統領圧勝：米大統領選は全米各地で投開票され、共和党のドナルド・トランプ前大統領が女性初の大統領を目指した民主党のカマラ・ハリス副大統領を破り、当選を決めた。トランプ氏は勝敗を左右する激戦州をほぼ制し圧勝だった(11月6日)。

政党支持率 自民党の支持率は前月から1.1ポイント増の20.0%だった。以下、立憲民主党は2.9ポイント増の7.5%、日本維新の会は0.4ポイント増の2.6%、公明党は0.1ポイント増の4.1%、共産党は0.4ポイント減の1.1%、国民民主党は4.3ポイント増の5.5%だった。支持政党なしは9.5ポイント減の52.7%だった。これは調査を衆院選後に実施した影響と考えられる。

政党支持率 (上段:11月、下段:10月)

政党	11月 (%)	10月 (%)
自民党	20.0	18.9
立憲民主党	7.5	4.6
日本維新の会	2.6	2.2
公明党	4.1	4.0
国民民主党	1.1	1.5
共産党	1.1	1.2
れいわ新選組	1.5	1.5
その他の政党	0.3	0.4
支持政党なし	52.7	62.2

国民の景気感 「良くなった」は前月から1.4ポイント減の3.8%、「悪くなった」は1.7ポイント増の42.6%だった。時事世論景気指数は前月から7ポイント減少して52となった。

時事世論景気指数

年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
1月	143.8	129.1	126.0	120.0	131.9	130.0	109.9	25.0
2月	34.6	23.1	68	83	77	89		
3月								
4月	77	59	45	59	61	51	59	52

暮らし向き 昨年の今頃と比べて「楽になった」は0.7ポイント減の3.3%、「苦しくなった」は0.7ポイント増の41.3%となった。